



たるみの空から



～支援員室より～

つい先日までの過ごしやすさを忘れてしまうほどの夏本番をむかえましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。センターから聞こえるセミの鳴き声は、梅雨のどんよりとした空の頃から毎朝、全力で今の暑さを警告してくれていたのを思い出すこの頃です。

6月より、ようやく通常営業を再開できましたが、利用者様ご家族様には新型コロナウイルス感染予防への度重なるご協力に心より感謝申し上げます。日々入ってくる情報や目まぐるしく変化する状況に迅速に対応できるよう今後もセンター一丸で務めてまいりますので、引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。また、熱中症対策についてもマスクの着用が欠かせない現状、職員ともども、より気を付けていきたいと思えます。

でも、熱い夏こそが「たるみらしさ！」と自分に言い聞かせ、これからの猛暑を満喫!?できるよう、皆さまも体調管理にはくれぐれもお気を付けください。

(施設長：師玉 幸彦)

～医務室より～

「か・ち・も・な・い」を知っていますか？

「コロナは熱に弱い」「〇〇が効果がある」など様々な情報が飛び交っています。新型コロナウイルスに関するデマやフェイクニュースには医学的な要素が含まれることが多く、信頼できる内容かを見極めるのが難しい場合が多いと思います。自らの健康にかかわる情報を集めて行動の選択肢を作り、適切に選び、予防や治療に役立てる能力を「ヘルスリテラシー」と言います。日本人は他国と比べてこの力が弱い傾向にあります。偽情報を見抜く5つのポイントがあります。「か・ち・も・な・い」(価値もない)と覚えてください。

か・・・書いた人は誰ですか？(信頼できる専門家ですか)

ち・・・違う情報と比べましたか(他の情報と矛盾はありませんか)

も・・・元ネタは何ですか(根拠となるデータはありますか)

な・・・何のために書かれていますか(お金儲けが目的の情報ではありませんか)

い・・・いつの情報ですか(今も変わりありませんか)

ヘルスリテラシーを高めることは、コロナ終息後も自らの健康を守る糧になります。

(看護師：S)



～新型コロナウイルス感染予防についての取組み～

未知のウィルスと言われる、新型コロナウイルス感染症流行の第1波がようやく収まったと思いきや、早くも第2波流行の兆しが見え始めました。そのような状況下で、施設としてどのように感染予防を講じているか、ご紹介していきたいと思います。



来所時は、玄関でアルコール消毒を行っています。
皆さん慣れたもので、最近では「消毒して」と、自ら手を出してくださいませ。



マスクが着用できる方にはマスクの着用をお願いしています。
意外とマスクができる方が多いのに驚きました。



対面で食事を摂る際には、パーテーションを立て対応しています。また、支援員は、顔にはフェイスシールド、手にはグローブを着用し介助を行っています。

他にも、館内の窓をロックをつけた状態で開け、常に空気の入れ替えができるようにしたり、ドライブの際にも、

車で“密”を作らないよう、人数調整を行うなどし、取り組んでいますが、今年も猛暑が予想され、ウィルス感染予防と同時に熱中症対策も行わないといけない状況に、とても危機感を覚えます。

(支援員：H)

【発行】社会福祉法人 ヨハネ会

「神戸市立西部在宅障害者福祉センター内 神戸市立自立センターたるみ」

〒655-0006 神戸市垂水区本多聞7丁目2番3号 (078) 787-5708

「神戸市立自立センターたるみ分場」

〒655-0884 神戸市垂水区城が山2丁目2番3号 (078) 753-3099

発行責任者：師玉 幸彦 機関紙担当：K、H